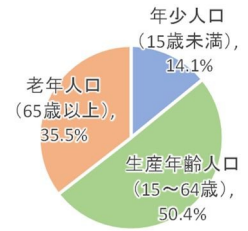
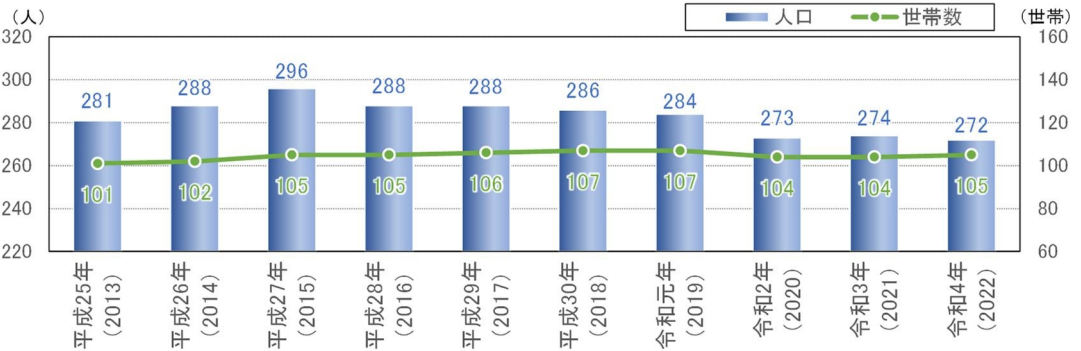


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	105 世帯	272 人	15 歳未満 (年少人口) 39 人
			15～64 歳 (生産年齢人口) 139 人
			65 歳以上 (老年人口) 98 人
約 50 年前	71 世帯	310 人	



## 10年間の推移



## 歴史等

地名の由来は、当所から市川の水を引き西田原以南の耕地を灌漑した堰溝の口(井掛りの口)によると言われています。

古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組は辻川組に属しました。文化7年(1810)の井ノ口村明細帳によると、家数は45軒・人数は182人でした。明治9年(1876)に西田原村の一部となりました。

古くから生野と飾磨を結ぶ街道が通り、現在も「ちょうちん屋」「あぶら屋」「紺屋」などの屋号が残り、かつての繁栄をうかがえます。市川を利用した高瀬舟の河上交通も盛んで、荷物の中継基地としての役割も担いました。また、対岸の山崎村との間には渡し舟もありました。

高名な日本画家であり、神崎郡役所の書記官を務めた藤本煙津は井ノ口出身で、町内に多くの作品を残しています。恵美須神社境内入口の日露戦争記念碑も藤本煙津が揮毫したものです。



恵美須神社



出雲狛犬 (恵美須神社)



戦役記念碑 (恵美須神社)



石棺蓋石 (井ノ口墓地)



堰溝



秋祭り・屋台

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

## 歴史文化遺産一覧

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 石造物	1	石鳥居（恵美須神社）	明治40年 (1907)	石鳥居。右柱正面には「奉」の文字と造立年月、左柱正面には「納」の文字と願主が記されている。				●		
	2	石灯籠（恵美須神社）	明治35年 (1902)	左右一対の石灯籠。右灯籠の正面に「献」、背面に願主、左灯籠の正面に「灯」、背面に造立年月が記されている。				●		
	3	石灯籠（恵美須神社）	大正4年 (1915)	左右一対の石灯籠。右灯籠の正面に「献」、左に「御大典記念」、背面に造立年月日、左灯籠の正面に「灯」、背面に造立年月日が記されている。いずれも台石の正面には「青年分会」、右灯籠の台石の背面には「藤本節二書」とあり、基壇には分会員や世話人の名が記されている。				●		
	4	石灯籠（大国主神社）	昭和3年 (1928)	恵美須神社の境内社大国主神社の左右一対の石灯籠。右灯籠の正面に「献」、左灯籠の正面に「灯」、各側面にそれぞれ「御大典記念」の文字と造立年月日が記されている。いずれも基礎の正面には「当村婦人会」とある。				●		
	5	手水石（恵美須神社）	明治6年 (1873)	手水石。正面に「盥嗽」の文字とともに造立年月・願主が、背面に石工が記されている。				●		
	6	狛犬（恵美須神社）	明治39年 (1906)	石造狛犬。恵美須神社前の狛犬は平成元年（1989）12月に新設され、かつての狛犬は社務所裏に置かれている。				●		
	7	狛犬（大国主神社）	昭和8年 (1933)	恵美須神社の境内社大国主神社の石造狛犬。出雲狛犬という前肢を曲げて後肢を伸ばした勇壮な姿を見せる。井ノ口大国主神社前の狛犬は平成5年（1993）2月に新設されており、かつての狛犬は手水石の後ろに置かれている。				●	●	
	8	井筒（恵美須神社）	明治21年 (1888)	井筒。右に「明治廿一年一月掘之」、左に「当社崇敬 井ノ口組」と記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

## 井ノ口

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり								
				①	②	③	④	⑤	⑥			
建造物	石造物	9	戦役記念碑(恵美須神社)	明治44年(1911)	正面には「明治三十七八年戦役記念碑 煙津藤本節二書」と記されている。明治37～38年(1904～1905)の日露戦役記念と応召軍人の勲功を表彰することを目的に造立された。村出身の日本画家・書家の藤本節二(煙津)が揮毫したものである。	●					●	
		10	新渠碑(井ノ口北端)	天保14年(1843)	正面には「新渠碑」の文字とともに由来等が記されている。江戸時代末期に辻川組大庄屋三木通庸が市川左岸地域の灌漑用水を確保するために水路の新設事業を進めた。井ノ口・辻川・西野・北野・田尻・大門・吉田・西光寺・八幡の住人がその功績をたたえて造立したものである。			●				
		11	村道改修記念碑	昭和2年(1927)	正面には「村道改修記念碑 天民書」と記されている。獣道程度であった村道を村役場に掛け合っ、寄付金等多くの人々の協力を得て改修したことを記念して造立されたものである。		●				●	
		12	石標(新町井堰左岸)	大正5年(1916)	石標。正面には「井堰標柱」、右に造立年月、背面に「井ノ口組 立合南田原組 福崎新村」と記されている。			●				
		13	煙津藤本先生墓	昭和13年(1938)	墓碑。正面には「煙津藤本先生墓」と記されている。	●						
		14	石棺蓋石(井ノ口墓地)	不明	家形石棺の蓋石。						●	
		15	石棺蓋石(井ノ口墓地)	不明	家形石棺の蓋石(分割)。						●	
	その他の構造物	16	月見橋	昭和39年(1964)	市川に架かる町道井ノ口山崎線の鋼橋。橋長94.5m。		●				●	
美術工芸品	絵画	17	熊谷直実と平敦盛図(恵美須神社)	明治35年(1902)	奉納者としてかつては16名の名がみられた。平成4年(1992)5月に修復。188×285cmの大絵馬。	●			●			
		18	川中島合戦図(恵美須神社)	明治時代	奉納月は「1月」とある。奉納者として12名の名がある。183×296cmの大絵馬。	●			●			
		19	矢作橋の日吉丸と蜂須賀小六図(恵美須神社)	大正11年(1922)	画家は「梶原健次」、奉納者は「戌年男」とある。88×103cm。	●			●			
		20	題材不明図(恵美須神社)	不明	剥落しており、奉納者・題材は不明。	●			●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
美術工芸品	絵画	21	羽子板絵馬(恵美須神社)	不明	奉納者は不明。かつては計13枚あったが、うち9枚が現存する。	●			●		
		22	破魔弓絵馬(恵美須神社)	不明	奉納者は不明。かつては計5枚あったが、うち4枚が現存する。	●			●		
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	23	井ノ口区有文書	—	253件(点数不明)。		●				
		24	鈴の森神社上棟式案内板	大正9年(1920)	井ノ口区蔵。大正9年(1920)に鈴の森神社で行われた上棟式の案内板。総高281.5×41.0cm。				●		
		25	恵美須神社上棟棟札	明治6年(1873)	井ノ口区蔵。総高111.0×上32.5下30.5cm、厚さ1.5cm。表面には造営に関係した大工(工師)や木挽として東大貫村の人々が記されている。				●		
		26	恵美須神社上棟棟札	明治6年(1873)	恵美須神社の上棟棟札。83.3×16×1.0cm。				●		
		27	恵美須神社上棟棟札	明治6年(1873)	恵美須神社の上棟棟札。83.5×16.5×1.0cm。				●		
		28	屋船命苅殿上棟棟札	明治41年(1908)	屋船命苅殿の上棟棟札。118.0×23.5cm。				●		
有形の民俗文化財	祭具	29	屋台(井ノ口区)	—	神輿屋根型屋台。5代目の屋台である。				●	●	
	その他の有形の民俗文化財	30	御神籤箱(恵美須神社)		井ノ口区蔵。昭和30年(1955)頃まで、恵美須神社(井ノ口区)のえびすまつりで使用されていた木製の御神籤箱。番号が書かれた木札が箱の中に入れており、一回一回まわして番号を引くもの。				●		
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	31	秋祭り(田原)	—	田原地区の屋台12台(布団屋根型10台、神輿屋根型2台)・神輿1台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台上で浄舞、浦安の舞が奉納される。			●	●	●	
		32	サイト	—	2月第1土曜と2月10日(初戎の前日)の2回、恵美須神社で行われる。				●		
		33	えびすまつり(初戎例大祭)	—	2月11日に恵美須神社で行われる。				●		
		34	夏戎	—	7月10日に恵美須神社で行われる。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき



## 井ノ口

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり													
				①	②	③	④	⑤	⑥								
遺跡	古道・街道等	35	生野鉱山寮馬車道	明治9年(1876)	生野鉱山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉱山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。											●	●
		36	生野街道(但馬道)	—	姫路から但馬へ通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。											●	
	戦跡	37	防空壕	昭和初期	国道すぐ近くの崖に位置する。												●
		38	防空壕	昭和初期	井ノ口墓地内に位置する。												●
名勝地	河川	39	市川	—	下流域は川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高く、魚類の在来種も多いことから、兵庫県レッドリスト(B)に掲載されている。また、月見橋下流右岸と神崎橋下流左岸は、ミクリ・ナガエミクリが生育する川辺植物群落として兵庫県レッドリスト(C)に掲載されている。								●				
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	40	上井用水(堰溝)	—	江戸時代に作られた灌漑用の水路で、水路沿いに南北に生野街道が通っていた。明治4年(1871)の辻川村絵図にその名が見られる。										●		
その他	信仰の場	41	恵美須神社	—	事代主命を祭神とするが、西宮えびすの分霊とも伝わる。井ノ口区の氏神。毎年2月11日に商売繁盛を願って「初戎祭」が行われる。											●	
	民間説話・地名・伝承地・屋号等	42	屋号(井ノ口)	—	近世から明治にかけて、井ノ口は、50戸余りの小さい村であったが、交通の要衝として栄え、現在も「ちょうちん屋」、「あぶら屋」、「紺屋」などの屋号が残り、往時の繁栄をうかがえる。								●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

## 歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・井ノ口屋台保存会を組織し、屋台の管理や秋祭り行事の継承の取組を実施しています。
- ・戦争で途絶えていた恵美須神社の奉納相撲を伝承するために恵美須神社奉納相撲伝承会を組織し、約70年ぶりに復活させました。
- ・えびすまつりについて、参加者が多くなるように開催日を祝日に変更しました。また、催しも落語や見せ物、富みくじだったものを餅まきに変更しました。



えびすまつり（餅まき）